

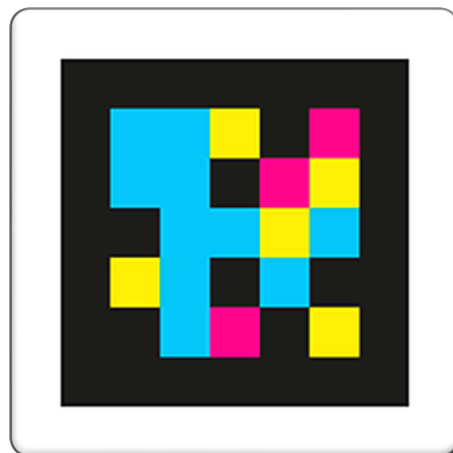
13. Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens NaviLens GO (ナビレンスGO)

Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens NaviLens GO (ナビレンスGO)

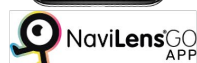
企業名	Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens
機器・サービス名	NaviLens GO (ナビレンスGO)
問合せ先	info/atmark/navilens.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	本アプリは、視覚障害者向けアプリ「ナビレンス」で利用される同じナビレンスコードを読み取り、視覚的かつ直接的な情報確認を可能にします。誰でも直感的に使いやすいインターフェースは、複雑な操作を要せず、カメラをコードに向けるだけで画面に情報が表示されます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 様々な場所や要素につけられたナビレンスコードに含まれる案内情報や追加コンテンツ(音声・動画・画像など)を、ユーザーが好む形で表示できる機能を搭載しています。 ● AR技術を利用した矢印表示が可能であり、選択した目的地への方向を矢印表示で直感的に理解することが可能です。例えば、バス停にナビレンスコードを設置すると、スマホを向けるだけでバスの運行情報を読み取れます。また、駅や施設内では目的地までの方向指示の矢印を表示できます。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● 20cmのコードで約17mの距離から、さらに広角160度の範囲から読み取りが可能なため、コードに接近したり、読み取り角度を自身で調整したりする必要がありません。 ● 読み取りが高速なため、カメラをコードに向けて固定する必要がありません。手の動きに制限があったり車椅子などの利用による下方の角度からでも、簡単にコードを読み取り手元で情報が確認できます。 ● 手話ビデオ、ピクトグラム、簡易テキストや子供向けコンテンツなどの表示が可能であり、表示されるテキスト情報の文字認識が難しい場合も再生ボタンをタップすることで音声読み上げで情報が提供されます。 ● 国内、国外を問わず使用できる世界共通アプリです。37言語に対応しており、ユーザーのスマホ使用言語で自動的に情報が表示されます。

Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens

NaviLens GO (ナビレンスGO)



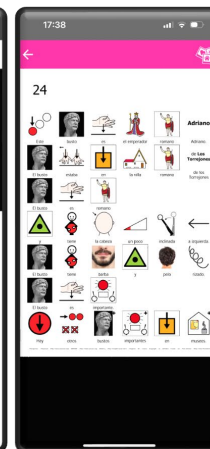
スマートフォンのカメラをナビレンスコードへ向けるだけで...



様々な方法で直接的に情報が得られます



写真やテキスト



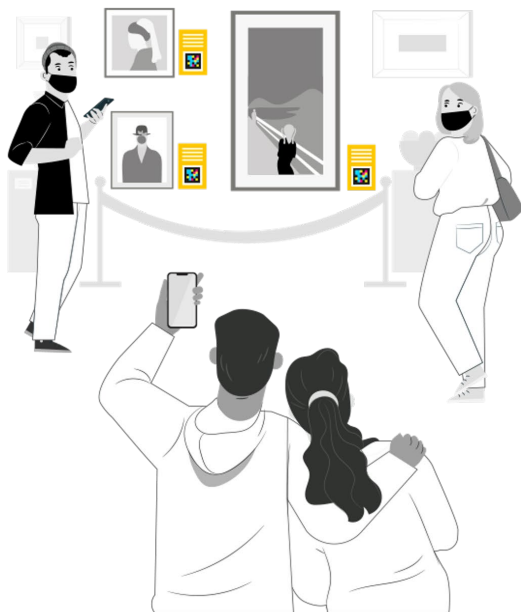
ピクトグラム



手話ビデオ



簡易テキスト



さらに、



37言語に対応。世界中どこでも同じアプリで情報へアクセスすることができます。



駅やバス停のコードでは、リアルタイムの運行情報が直接的に表示されます。

見えない、見えにくい方は、音声情報アプリ、「ナビレンス」をご利用ください。

同じコードを読み取ることで、ナビレンスでは音声やサウンドで情報をお伝えします。

※「ナビレンス」は「情報アクセシビリティ好事例2023」の選定製品です。

アプリをダウンロード!

上のナビレンスコードをアプリでスキャンして今すぐナビレンスをご体験ください。



Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens

NaviLens GO (ナビレンスGO)

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 二次元コードは、アリカンテ大学のモバイルビジョン研究所と共同研究で開発された。視覚障害者に読み取りやすいコードを開発した上で、社内チームに所属していた全盲スタッフも含めてアプリ「ナビレンス」の開発に着手した。このアプリを公開した際に、制限された視力で必要な情報だけを確認したい、という声も聞かれたことから本アプリの開発が始まった。
- 音声読み上げに対応した動作と対照的に、視覚情報を主に提供するアプリを開発することは、コードを設置する側に更に情報提供の機会を増やすという目的がある。いずれかのアプリを利用して、情報を取得できるユーザーが増えることで、コードを導入するメリットが高まり、様々な場所でコード実装が進められることが期待される。その結果、ユーザーには、より多くの場所で情報を取得できる機会が提供できるようになる。
- スペインや中南米の障害者団体からの意見などで、手話ビデオの挿入やピクトグラム、簡易テキストなどのコンテンツが表示できるプラットフォームになった。
- ユーザーからのフィードバックや要望に対応する形で、消費製品に付けられているコードの読み取りにフィルター機能が付け加えられた。

企業としての 組織的な取組

- 情報アクセシビリティに関する記事や出席したカンファレンスの内容、ユーザーからのフィードバック、要望、提案に関しては、全社員が参加する場で情報共有が行われている。
- 弊社はスペインにのみ拠点を置く企業であるため、コード実装にはそれぞれの国や地域の当事者団体などへコンタクトを行い協力を求めている。当事者体験からのフィードバックを分析し設置施設側と共有することで、更に有効性の高い実装を目指している。
- スペインONCE、イギリスRNIB、アメリカのライトハウス、メキシコのグアダラハラ大学CUCSなど様々な国の当事者団体と密接な関わりのもと、新しい機能の公開前の動作テストに協力を求めたり、意見交換を行なっている。
- 上記を踏まえ、アプリの改善、新機能開発、コード実装運用に関しての業務を分担しているが、全ての社員が常に情報アクセシビリティへの高い意識を持つ必要があると認識されている。アプリの専門的なアクセシビリティに関する評価は第三者機関に求める形で行われている。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- テキストを含む様々な形式で情報を得ることができることは、弱視者(ロービジョン)や視覚障害者以外の障害者、あるいは利用する年齢層の幅も広がることが期待できる。また、各国語でアプリが提供されるので、情報を読み取れさえすれば、自国語で利用できるようになる点は優れている。
- 海外での普及状況から見ても交通利用において非常に高いアクセシビリティが実現され、かつユーザビリティとしても使いやすい形へと完成度を高めている。
- 視覚障害者の、最後の数メートル問題の解決に近づく方法として大いに期待できる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 二次元コードの読み取り性能がよく、カメラの視野に入ればすぐにキャッチできて使いやすい。利用者にとっても、コードの提供者にとっても、利用方法が簡単である。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 規格やガイドラインに示されている項目だけでなく、視覚障害者や車いすユーザー、子ども、高齢者などより広くニーズを集めて、実際利用する当事者の視点にたった開発が行なわれている。
- 当事者のニーズを踏まえ、手話ビデオ、ピクトグラム、簡易テキストの表示ができるプラットフォームに改善している。
- ユーザーからのフィードバック、要望、提案に関して全社員が参加する場での情報共有を行ったり、様々な国の当事者団体と密接な関わりをもって意見交換を行なっている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ アクセシビリティに関する知識向上について、全社を挙げて取り組んでいる。国際的な視点からアクセシビリティに関する情報を収集している。
- ・ 基本的な情報の二次元コードを無償で提供する等の努力を続けている。
- ・ 海外では導入事例が多く、既存の交通システム全体を変革しようと非常に挑戦的かつ意欲的に取り組んでいる。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 複数のコードを選択する方法や、道案内をシームレスに行う方法が十分に対応されているかを明らかにすることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 視覚障害者が片手に白杖を持ちながらスマホを操作することになるため、両手が塞がる懸念への対応を期待する。
- ・ 手が不自由な障害者や手動の車いすユーザーなど、手に持って移動しながら使用することが困難な人への対処法や利便性向上を期待する。
- ・ 多言語対応が実現すれば、障害者だけでなく健常者にも広く利用される可能性があり、期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- ・ 交通利用以外でもQRコードの普及率が非常に拡大していると思われる日本において、ナビレンスコードの普及がサービスの利用拡大の前提条件となっており、普及戦略や見通しが明らかになることを期待する。
- ・ インバウンド含めて利用可能性を示すことで普及が進むことを期待する。
- ・ 公共交通機関や施設との連携を通じて、コードの設置場所を増やし、利用可能性を広げることを期待する。
- ・ ナビレンコードがどのような場所に設置されているかを示しておくことを期待する。